「鞍馬天狗」白頭

鞍馬山の奥、僧正が谷に住む山伏（シテ）が登場し、鞍馬山で人々が花見を行うことを聞き、自分も花を眺めようと出かけます。

前シテ…山伏

西谷の僧坊の能力（アイ）が東谷の僧坊へ花が咲いた知らせの手紙を持っていきます。東谷の僧（ワキ）は、稚児たち（子方）を連れて花見にでかけます。

子方…稚児

ワキ…僧
ワキツレ…従僧

しかし花見で能力が一曲舞っていたところ、不審な山伏に気づき、一行は帰ることにします。

アイ…能力

それはちょっと

追い出しましょう

貴賤も親疎もないのが花見の席であるはずなのに、と山伏が嘆いていると、一人だけ残った牛若（子方）が声をかけます。

こちらへ来て花を見ましょう

子方…牛若丸

牛若の美しさに、山伏は心を奪われます。

山伏は牛若が源氏の沙那王であることを知っており、境遇に同情して、花の名所を残らず案内して回ります。

あれは愛宕の初桜

こちらは横川の遅桜

吉野そして初瀬の桜ですよ

山伏は自分は鞍馬山の大天狗であると明かし、牛若が平家を滅ぼしたいと思うなら、兵法の奥義を伝えようと言い残して、雲間へ飛んで消えました。

木の葉天狗（アイ）が登場し、牛若の武術の稽古のため、まずは二人で斬り合います。

面…鷲

アイ…木葉天狗

牛若が華やかで凛々しい出で立ちで登場します。

大天狗が彦山の豊前坊など、錚々たる天狗たちを連れて登場します。

後シテ…天狗

大天狗は牛若に、前漢の功臣・張良が黄石公の落とした沓を履かせ兵法の大事を授けられた故事を語り、牛若が張良のように自分を師匠として敬ってくれることを喜びます。

そして、源氏である牛若は授けられた奥義によって、やがて平家を西海に追い下すだろうと舞います。

暇を告げる大天狗の袂に牛若はすがりますが、大天狗は名残を惜しみつつ、合戦でも影身を離れず守護することを約束して、梢を翔って消え失せるのでした。

画…永谷 弓